

私たちはろう学校の友だちと交流してます！

長野市立 城東小学校 長野県 長野ろう学校

松本市立 明善小学校 長野県 松本ろう学校



長野ろう学校での
交歓会

城東小の友だちが
たくさん来てくれて
ドキドキだったけど、
うれしかったです。



ろう学校から音楽会のお礼状



遠足



5/22 明ぜん小学校との交流

交流会の様子
(2年生)



合同運動会



5/30 明ぜん小音楽会

合同音楽会の様子



長野市立城東小学校 4年生担任
鈴木 貴善 先生

着任当初、交流会でろう学校の子とどうやっ
てコミュニケーションをとるんだらうと思
いました。でも、子どもたちはゆっくり、はっきり
しゃべれば伝わるといことが分かるようで、驚きました。

手話が分からなくても、身振り手振りを交えながら一生懸命
伝えようと努力すると、情報交換ができてくる。いつか友だ
ちになってしまえば、一人の友だちとして通じ合えるんですね。
1年生の時からふれあう中で学んだことが多いのだと思います。

松本市立明善小学校 高野 毅 教頭先生

学校が隣同士なので、日常的に行き来があり、
同じ地域の学校に通う友だちという感覚で
す。交流の日はお互いが楽しむためにはどうした
らよいかを考えています。特に何かを「しちゃい
けないよ」という指導はせず、実際にふれあうこ
とで互いの理解が深まることを期待しています。

合同音楽会の全校合唱は手話コーラスで、我が
校の伝統にもなっています。

聴覚障がいのある人への理解と配慮を

●聞こえない世界を想像してみよう

もしかしたら、自分や家族が事故や病気や耳が聞こえなくなるかもしれません。
高齢になると誰もが聞こえにくくなる可能性があります。聞こえない世界、聞
こえにくい世界を想像し、聴覚に障がいのある人の気持ちを理解しましょう。

●一緒に話しをするときは……？

- 1.相手の正面に回って目をあわせてから話す。
- 2.何について話すのか、示してから話す。
- 3.目で見てわかるものを使って話す。
(手話・指文字・筆談・ジェスチャー・絵や写真など)
- 4.相手に分かりやすいように、文と文の区切りが分かるように話す。
- 5.不自然にならない程度に口を大きく開け、早口にならないように話す。
- 6.伝わったかどうか確認する



●聴覚障がいがあるとこんなことが苦手です

- ・後ろや横から話しかけられること
- ・よく似た言葉を聞き分けること
- ・2人以上の声を聞き分けること
- ・何かをしながら同時に聞くこと
- ・子音(特に「さしすせそ」)を聞くこと
- ・「～が」「～を」「～に」などを正しく使うこと
- ・話し合いや会議など複数の人が話す場で話を聞くこと



●聞こえ方は一人一人違います

補聴器をつけてもすべての音がはっきり聞こえるわけ
ではありません。聞こえ方は一人一人違うので、話の
仕方もその人や場面にあった方法を一緒にみつつけてい
きましょう。



協力：長野県長野ろう学校、長野県松本ろう学校、長野市立城東小学校、松本市立明善小学校、長野市立南都小学校

参考：「ふしぎだね!?聴覚障害のおともだち」ミネルヴァ書房

発行日：平成28年1月20日 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 地域福祉部 ボランティア振興グループ

〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130

E-mail vceneter@nsyakyo.or.jp URL http://www.nsyakyo.or.jp/

ろう学校の友だちを知ろう

*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

先生方へ
やまびこだより
No.138
今号の特集から

ろう学校ってどんな学校？

長野ろう学校高等部 レモン・デイズの活動と交流事例から



事例の概要

手話の出張出前講座 レモン・デイズ

ろう学校とは、耳の聞こえない人、聞こえにくい人が通う学校です。長野県には長野市と松本市の2か所にあります。

長野県長野ろう学校(長野市)の高等部では、聴覚障がいについて知ってもらい、簡単な手話を楽しく学ぶ「レモン・デイズ」の活動を続けています。

「レモン・デイズ」は、8年前、当時、「オレンジ・デイズ」というテレビドラマを観ていた生徒から、「ろう文化を広げるために私たちも何かしたい」と声が上がリ、生徒会活動として始まりました。現在は長野市内の小・中学校、高校、特別支援学校、地域住民の集まりなど、様々な所で出前授業を行っています。

クイズやゲームを取り入れた講座は、特に小学校で好評です。小学生はろう学校のお兄さんお姉さんともすぐに仲良くなって、障がいの壁もなく、自然に手話を覚えていきます。

「レモン・デイズの活動は、生徒が健聴の人たちとどうコミュニケーションをとっていけばよいかを考える良い機会となっています」と担当の内山和久先生は言います。「一般的には支援を受ける側の子たちが、この活動では教えたりサポートをしたりする側になる。そこで自分も人の役に立つことができるんだと実感でき、彼らの自信となっているのです」。自分たちのことを知ってほしいという思いから始まった活動が、自分自身の成長に繋がる大きな一歩となっています。

ろう学校との交流活動

長野ろう学校小学部は近くの長野市立城東小学校と、また長野県松本ろう学校小学部(松本市)は隣にある松本市立明善小学校と交流をしています。運動会、音楽会、文化祭などの全校交流をはじめ、社会科見学や遠足などクラスごとの交流もしています。特に運動会は、長野、松本両校ともかなり気合いの入った一大イベントです。

「2つの学校で作りに上げている運動会」と話すのは長野ろう学校の岸田優代校長先生。運動会前は、練習のために毎日2つの学校を往来します。応援団長も2人ずつ、校長先生のお話も2人分、なんとお互いの校歌も歌います。

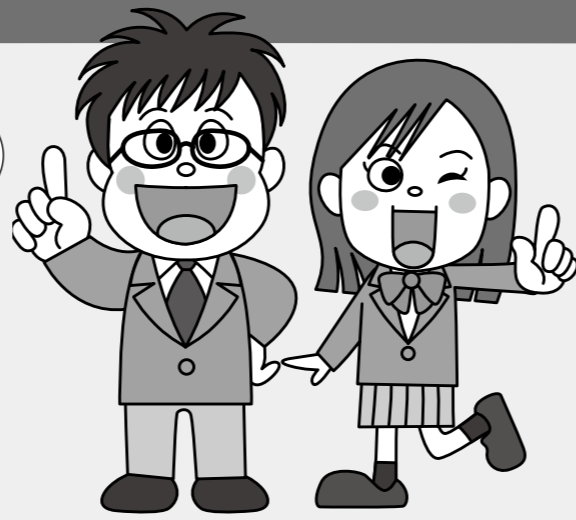
運動会にも思いやりの工夫がたくさんあります。例えばかけっこのとき、スターターの先生は手に赤い手袋をはめています。ピストルだけでなく、手を動かしてスタートの合図を知らせるためです。また、ダンスで移動するときは、まわりの子が「次こっちはだよ」ととても自然にサポートをしてくれます。このような心遣いが、当たり前に行われています。

「特に教えたわけではなく、どうしたら伝わるか、一緒にできるかを子どもなりに考えて工夫している」と城東小学校の鈴木貴善先生は話します。

「自分の想いを伝えたい、通じ合いたい」という気持ちが自然と行動に繋がっているのです。

長野ろう学校 高等部 レモン・デイズ

出張手話講座 小学校に行きました！



長野市立南部小学校での講座

声を出さずにジェスチャーで表現する簡単なゲームで盛り上がります。

手話は、手の動きだけでなく、顔の表情や身体の動きなどを使って表す「ことば(言語)」です。



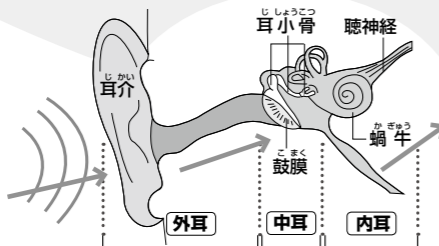
こんにちは。



「指文字」は、「あいうえお」の五十音を指の形で表します。そのほか、指で空中に文字を書く「空書き」というコミュニケーションの方法もあります。

手話には、日本語とは別の文法を持ち、独立した言語である「日本語」と、日本語の文法に合わせて使う「日本語対应手話」があります。聴覚障がいのある人全員が手話を使うわけではありません。また手話には方言があります。

聴覚器官と音の伝わり方



聴覚障がい
聴覚障がいといっても、聞こえにくさの程度や種類は、人によってさまざまです。

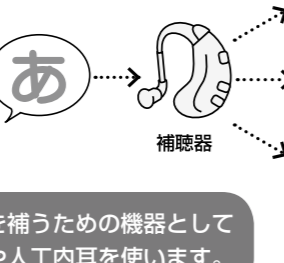
伝音性難聴

外耳から中耳までの間に原因がある難聴で、音が小さく聞こえます。



聴覚障がい

内耳に原因がある難聴で、音がこもって聞こえます。



聞こえを補うための機器として補聴器や人工内耳を使います。

感音性難聴

周波数の合わないラジオを聞く感じ



『レモン・デイズ』とは、長野ろう学校高等部の生徒が、挨拶や自己紹介など簡単な日常会話を手話でどう表現するかを一緒に学びながら、お互いに交流を深めていくことを目的とした活動です。

講座に参加した小学生の感想

- いろいろな動物の手話の種類を教えてもらい、面白かったです。家族にも紹介しました。
- 耳の聞こえないことを知ってびっくりしました。でもレモンデイズのみなさんはとても楽しそうにしていたので、すごいと思いました。
- 本当に楽しかったです。耳の不自由な人がどれだけたいへんかも分かりました。
- 耳が不自由でも、ちゃんと生活できるなんて、すごいと思いました。

長野市内の小学校5年生の感想から

「アニメ」って手話でどう伝えるの？



手話をクイズ形式で覚えてもらいました。

長野ろう学校 高等部生徒会顧問
内山 和久 先生

レモン・デイズの活動は、特に小学生からはダイレクトに反応が返ってくるので、生徒たちの刺激になるようです。小学生にとっては、自分たちと異なるコミュニケーションの技を見て「すごい。勉強したいな」と思うきっかけにもなります。

この交流を通して、「楽しかった。また会いたい」と、障がいを超えてお互いを身近に感じてもらえたらうれしいですね。



ろう学校ってどんな学校か知っていますか？

ろう学校(=聴覚障がい特別支援学校)は「聴覚に障がいがある人たちのための学校」です

長野県内には、長野ろう学校(長野市)と松本ろう学校(松本市)の2校があります。

どんな人たちが学んでるの？

ろう学校は、両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル(dB)以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度の人が就学対象です。幼稚園、小学部、中学部、高等部の一貫教育です。また、在籍するしないにかかわらず「聞こえ」や「ことば」に関する教育相談、支援、情報提供を行う聴覚障がいのサポートセンターの役割も果たしています。

何を勉強しているの？

学習内容は地域の小学校と同じです。そのほか「自立活動」の時間があり、児童の実態にあわせて、指導を行っています。手話や音声言語の「ことば」の力をつけ、コミュニケーション力を養ったり、社会制度を学んだりします。放課後には個別指導も行っています。



松本ろう学校の授業風景

松本ろう学校 小学部主任 田中 秀男 先生

聴覚障がいのある子どもたちは、言葉が自然に聞いて覚えるということができないため、できるだけ目に見える視覚的な教材を使い、書いて確認するなどして、授業をします。

語順を間違えたり(「こたえ」を「こえた」と言うなど)、助詞(私に、私が、私となど)の理解がしにくいので、何回も繰り返し説明します。

幼稚園では身の回りの「生活言語」が中心ですが、小学部にあがると目には見えない抽象的な「学習言語」の獲得の境になるので、これをどう獲得していくかが指導の課題です。

例えば国語の授業では、劇化して物語の主人公を演じ、その時の気持ちを理解するというのもしています。教科に合わせて、それぞれの先生が独自に工夫して授業を行っています。



長野ろう学校 佐藤 幸三 教頭先生

聴覚障がいについて、聴意外と知らない人が多いのではないのでしょうか。レモン・デイズは、手話を教えるだけでなく、「聴覚障がい」や「自分たちの存在」を知ってもらいたいという生徒の思いから始まっています。

訪問先から「楽しく良い交流になった」という声もたくさんいただいています。



長野ろう学校の授業風景



校内はどうなっているの？

校内には音環境に配慮した工夫によって、学校生活を送ることができます。視覚情報が豊富です。教室だけでなく、廊下にもたくさんの掲示物があります。

●表示灯
校内にはチャイムがなく、色によって分けられた表示灯が時間になると点滅します。また、緊急時も点滅します。

●ミラー
廊下の曲がり角や階段には鏡の球体があります。人とぶつからないようにするためのいわゆる「カーブミラー」です。

●ループ・FM補聴システム
先生の声や音楽を送信機(マイク)から電波によって直接受信機(補聴器)へ届けるシステムです



長野ろう学校の校内

●見える校内放送(PDPシステム)
各教室、廊下にはモニターを設置しています。日程、連絡、緊急通報などを知らせます。各教室ではスクリーンとしても使用します

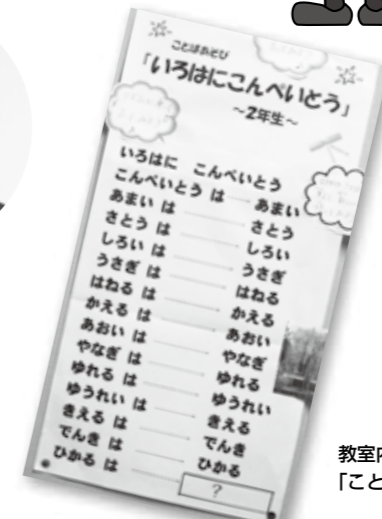


長野ろう学校 岸田 優代 校長先生

ろう学校で各先生方が工夫されていることで、一般の小・中学校に活用できることはたくさんあります。

例えば、きれいに整理されていて、必要な情報をきちんと伝える板書やICTの活用です。発達障がいの子にも活かせるノウハウであり、支援だと思えます。

これらを当たり前で終わらせることなく、教員同士で指導方法を共有し、発信しあっていけたらと思っています。



教室内の掲示物(2年生)「ことばあそび」